

言語運用を基盤とする言語情報学拠点

Center of Usage-Based Linguistic Informatics (UBLI)

川口裕司

(COE 拠点リーダー)

言語情報学 (Linguistic Informatics)

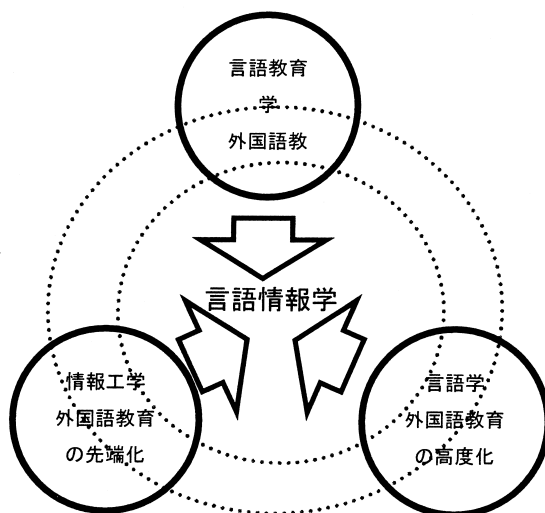
本 COE 拠点の目的は、情報工学の基盤の上に言語学と言語教育学を有機的に統合し、言語情報学という新たな統合的学問分野を創成することである。

言語情報学の目にみえる成果としては、以下の三つを挙げることができる。

まず 17 言語を擁する TUFSS 言語モジュールと呼ばれるウェブ教材の開発がある。次に、それを応用した多言語 e-Learning システムの構築があり、最後に、内部・外部の評価に基づく通言語的な言語能力記述モデルの確立がある。

ボーダレスな多言語時代に入った現在、高度な言語運用能力をもち、IT 技術を駆使した先端的な言語教育を行

うる優秀な若手研究者の養成は、言語教育現場の長年のニーズに応えるものである。本 COE 拠点では 4 つの班が組織化され、それぞれがある程度独立しながら研究を進めている。



研究組織

TUFSS 言語モジュール開発と各班の関係は以下になる。言語学班と言語教育学班が連携して言語素材を作り、情報工学班がそれをウェブ化・e-Learning 化する。言語学班は言語学的観点から、言語教育学班は学習者利用の観点から教材を分析・評価し、改良を続ける。言語情報学班はこの開発作業の全体を統括し指揮する。さらに各班は、TUFSS 言語モジュール開発のための基礎研究も行なってきた。たとえば言語学班は、英語、フランス語、スペイン語、中国語、マレー語、トルコ語等で言語運用コーパスの構

築やコーパス言語学的研究を行なうと同時に、情報工学班と連携し、コーパス分析ツールの研究も進めてきた。言語教育学班は三つのグループに分かれ、日本語と英語の学習者言語や中間言語の分析を行い、日本語の自然談話コーパスを構築し、それを分析し、あるいは発音モジュールの評価アンケートを実施してきた。情報工学班はユビキタス環境の実現に向けた情報インフラの整備と e-Learning システム構築のための基礎研究を行ってきた。

この研究組織を統括するのは、事業推進担当者7名からなる統括班である。また各班の連携がより緊密になるよう、連絡班も設置されている。

21世紀 COE 拠点事業推進担当者

氏名	専門	役割分担
川口 裕司	フランス語学・トルコ語学	拠点リーダー、言語情報学統括
在間 進	ドイツ語学	言語教育学統括、言語情報学
富盛 伸夫	理論言語学	言語学
高垣 敏博	スペイン語学	言語学
敦賀 陽一郎	フランス語学	言語学
亀山 郁夫	ロシア文学	言語教育学
水林 章	フランス文学・歴史学	言語教育学
野間 秀樹	朝鮮語学	言語学
芝野 耕司	情報学	情報工学統括・言語情報学
梶 茂樹	音韻論	言語学
峰岸 真琴	言語学	情報工学・言語情報学
宇佐美 まゆみ	言語社会心理学・ 日本語教育学	言語教育学

統括班： 在間 進、高垣 敏博、敦賀 陽一郎、芝野 耕司、峰岸 真琴、
宇佐美 まゆみ、川口 裕司

連絡班： 浦田 和幸、黒澤 直俊、海野 多枝、吉富 朝子、佐野 洋、
林 俊成